



風かおる  
人が輝き  
躍動するまち

# とままえ

# 11

No.591



## まちびと 百景

### ミニロケットに大歓声！

古丹別小学校で行われた「手作りロケット教室」に参加した苫前小学校6年生、古丹別小学校4年生のつくったロケットは、火薬を使ったもので発射は本物そのもの。高くうち上がるロケットは、雲まで届く勢いにも感じた。児童たちはパラシュートで落ちてくるロケットを夢中で追いかけていた。

講師の植松努さんは「君たちはロケットも作れたのだから、これから何でもできる。くじけずチャレンジしてほしい」と児童に力強く語っていた。

- 内閣総理大臣より祝状と銀杯授与ほか…2
- 学社融合事業「稲刈り体験」ほか…3
- 町内小中学校学芸会・文化祭ほか…4
- みんなの作品展ほか…5
- 留萌地方南部弁論大会ほか…6
- 両中学校吹奏楽部定期演奏会ほか…7
- 健康ばんざい…8
- 学びの広場…9
- 国保ガイド・介護保険Q&A…10
- 国民年金・川柳…11
- すまいる情報…12～13
- 中学生ギャラリー…14

### まちの人口

人口／3,637人(男／1,703人：女／1,934人)  
世帯数／1,641世帯 (10月31日現在)

URL:<http://www.town.tomamae.lg.jp>

# 100歳おめでとうございます ～内閣総理大臣より祝状と銀杯授与される～



100歳を迎えられた方々の長寿を祝い、多年にわたり社会の発展に寄与したことへの感謝を目的に、敬老の日の記念行事として内閣総理大臣から祝状及び銀杯を贈呈する事業で、本町でも3名の方が対象となり、9月15日(水)と16日(木)に贈呈された。

贈呈となったのは、苫前幸寿園に入所している伊藤ミサヲさん、岩見在中嶋カツエさん、苫前在住の竹橋チヨさんの3名。

9月15日(水)の苫前幸寿園敬老会の席上での贈呈となった伊藤ミサヲさんは、留萌振興局の條野昌和副局長より祝状及び記念品が贈られると笑顔で受け取っていた。

また、翌16日(木)には中嶋カツエさん、竹橋チヨさんにも同振興局の野崎耕二社会福祉課長より贈呈された。



## これからも元気で長生きを！ ～町内で敬老行事開催～

9月ということで本町でも敬老行事が行われ、高齢者のこれまでのご苦労をねぎらうとともに、元気で長生きされることを願った。

9月15日(水)には、特別養護老人ホーム苫前幸寿園の敬老会が開催、入所者とその家族のほか、来賓として留萌振興局の條野昌和副局長、森町長、星野恭司町議会議長ほかが参加し実施された。

開会で白寿、米寿をむかえた施設入所者6名に祝品が1人ひとりに贈呈されたあと、社会福祉法人苫前幸寿会の斉藤長蔵理事長が挨拶で「第24回を迎えたこの敬老会に入所している皆さんが元気で参加していただけることを大変喜ばしく思う。本日はご家族と一緒に楽しんでほしい」と挨拶があった。続けて森町長、星野議長からは「大戦を経て、苦難の時代



を本町発展のためご尽力いただいたことに改めて敬意と感謝を申し上げたい。100歳と言わず長生きをしていただき、楽しい余生を送ってほしい」と祝辞を述べた。入所者は家族と一緒に余興として行われたマジックショーを見ながら園で用意された料理や飲物を味わいながら楽しいひとときを過ごした。

また、9月17日(金)には町130年記念の敬老会が公民館で開催され、町内に居住する75歳以上の高齢者のうち約180名が参加、盛大に行われた。

主催者あいさつで森町長は「参加されている皆さんを見ると日頃から運動や軽作業を行い、健康管理をされていることが伺える。我が国の繁栄は皆さんの努力の賜物といえる。今日1日楽しく過ごしていただきたい」と述べ、星野議長



も「現在の社会の基盤をつくってこられた皆さんの貴重な経験をこれからも地域の活動に活かしていくことが更なる発展につながることから、次世代に生きる姿と希望を与えてほしい」と祝辞を述べた。

これに対し、老人クラブ連合会の白府義雄会長は「盛大な敬老会を開催していただき感謝している。健康で長生きするためには心の癒しが必要であるため、今日は心から楽しみたい」と謝辞を述べた。

参加者は用意された料理や飲物を味わい、ステージで行われる苫前保育園児によるお遊戯、苫前婦人会による舞踊、そして参加された方の自慢ののどを披露するカラオケに声援や拍手が飛び、敬老の1日を大いに楽しんだようだ。



## 苫前商業高等学校体験入学



9月15日(水)苫前商業高等学校体験入学が開催され、町内の中学生はもとより羽幌、初山別、留萌の中学生を含めた約60名が商業高校はどのようなところか、何を学習するのかの一部を体験した。

挨拶で金濱茂校長は「皆さんは高校だけのことを考えるのではなくその後のことも考え、自分を活かしていける、自分の夢を叶えてくれる学校を選んでほしい」と述べた。

参加した生徒たちは、学校紹介の説明、商業部が考案したかぼちゃあんのどら焼きをもらった後、授業参観・理科実験「可視光線の性質」と商業学習「オリジナルカレンダーづくり」の班に分かれてそれぞれの体験を行った。

## 学社融合事業

## 「稲刈り体験」

9月17日(金)に岩見の花井秀昭さんの圃場で学社融合事業「稲刈り体験」が行われ、苫前小学校(八谷芳博校長)と古丹別小学校(岩村直幸校長)の5年生あわせて33名が昔ながらの稲刈りを体験した。

初蒔きから始まった体験も、田植え、生育調査などを経てこの日を迎え、昨年は実の入らないものも多かったが、今年は実がふっくらしておりきちんと成長したのが伺えた。

稲刈りの前には花井さんより「鎌で刈るので指を下にしないこと」などの注意の後、体験がスタート。最初は慣れない手つきも徐々に慣れスピードアップ。おおよそ40分ほどで終了。コンバインにも乗せてもらい、昔と今の農作業の違いを体験できた1日だった。



## ホタテ稚貝の小ささにびっくり

## 学社融合事業

## 「ホタテ作業見学」



9月22日(水)に加藤孝幸さんのホタテ作業場で学社融合事業「ホタテ作業見学」が行われ、苫前小学校と古丹別小学校の3年生あわせて28名がホタテ作業の見学と体験を行った。

加藤さんや留萌北部地区水産技術普及指導所の河村治夫所長よりホタテがどのように育てられ、市場に出回るかの話やホタテ稚貝が機械で選別される様子、ホタテの籠に稚貝を入れる作業を見学した後に、児童は稚貝を20個ずつ数え籠に入れる作業を体験した。

児童から「1日何時間くらい働いているか」「オホーツクに稚貝を送るのはなぜか」など質問が多く出されたが、加藤さんは丁寧に答えていた。

## 図書充実に寄与した岩出さんに感謝状授与

北海道新聞社が募集の「街の図書館への図書寄贈」事業で、本町の図書室サポーターである岩出弘子さんが応募したメールが当選、9月21日(火)北海道新聞社より209冊の図書が寄贈され、翌22日(水)図書のお披露目と図書充実に寄与した岩出さんに感謝状の授与が行われた。

岩出さんは「サポーターとして幼児や児童への読み聞かせなどの活動で、子ども達の楽しそうな顔が大好きです。でも本が少ないので、本が増えて子ども達の笑顔が増えていけばいい」と記載し、応募。岩出さんの活動を通した思いが伝わったようだ。

贈呈された本と図書サポーター仲間を前に行われた感謝状授与では、ちよっぴり照れながら泉泰仁公民館長から感謝状を受け取った。



## コツコツと活動を続け30周年 ～苫前クリスタルコーラス～

町内の女性コーラスグループである苫前クリスタルコーラスが結成30年を迎え、記念コンサートが9月25日(土)公民館で開催され、一般住民のほか、過去に所属したメンバー、関係者を含め約180名が透き通るようなハーモニーに酔いしれた。

苫前クリスタルコーラスは、昭和55年に公民館成人学級の講座をきっかけに発足。昭和57年から町民文化祭や留萌管内のサークル団体が集まり練習の成果を発表する「留萌地方婦人音楽サークル交歓会」に参加。以降毎年双方の発表会には参加している。平成5年に現在の公民館ができると作曲家で歌手の森田公一さんや作曲家の中田喜直さん、本町出身のオペラ歌手の大友幸代さんらと共演するなど活動を展開してきた。しかしこれまでの活動は苦勞も多く、コーラスの指導は中学校などの音楽教諭を指導者として依頼、年々引き継いだり、メンバーが少ない時期も勧誘などを行いコツコツと活動を続けてきた。

この日のコンサートも、特別出演として30周年記念で急遽町内の有志で結成された男性コーラス苫前ウィンドセブンや、友情出演として名寄白樺合唱団も共演し、4部構成で行われた。



第一部と第四部は、クリスタルコーラスのみで唱歌メドレー、ひとひらの花びらなど女性らしいハーモニーが響き渡った。第二部では苫前ウィンドセブンと名寄白樺合唱団とのコラボレーションで昴、証城寺の狸囃子などを披露、高音と低音が混じり合う素晴らしい歌声が響いた。第三部では名寄白樺合唱団によるピリブ、夜空のムコウなどのおなじみの曲が披露された。

拍手が鳴りやまず迎えたアンコールでは、設立当初の公民館成人講座担当者であった当時社会教育主事の鈴木武士さんが千歳市から駆けつけ、鈴木さんの指揮のもと「川の流れるように」を来場者とともに歌いフィナーレを迎えた。終了後には、出演者と過去のメンバーなどが集まり交流会を実施。昔話に華が咲いたようだ。



**10月3日(日) 古丹別中学校文化祭**  
巻き起こせ50人の笑いと感動の古中旋風を

**10月3日(日) 苦中祭**  
Dear... ~あなたに届け私達の心~

**10月17日(日) 古丹別小学校学芸会**  
最後まで力を合わせよう~やる気・勇気・元気~

**10月9日(日) 苦前小学校学芸会**  
83人が 舞台の上で 練習の成果を発揮し 輝け



## 標語コンクールで入選

羽幌地区保護司会(須郷恵一会長)が実施の「第60回社会を明るくする運動・標語コンクール」古丹別小学校4年の正田菜々美さんと同校5年の平井愛佳さんが佳作に入選し、10月7日(木)同校で表彰式が行われ、野崎信輝苦前支部長から賞状と盾が授与された。



## 牛乳消費拡大PR用物品の贈呈

モーモーみるく倶楽部代表の伊藤まち子さんと大矢根裕子さんが10月5日(火)来庁し、牛乳消費拡大のために町内小中学校児童生徒へミルクストロージッパーとクリヤホルダーの物品が贈呈された。



同品は、後日学校に届けられ児童生徒に配布された。ありがとうございました。

# みんなの作品展

10月2日(土)・3日(日)に苫前福祉センターで苫前地区の趣味の愛好家約20名の作品等を展示する「みんなの作品展」が開催された。

これは、町民文化祭は以前苫前・古丹別の両地区で開催されていたが、平成5年に公民館が完成したことに伴い、古丹別地区のみでの開催となったことで、苫前地区の中でも見に行きたいけど、時間や足がないなどの理由で楽しめない住民もいることから、苫前地区に在住する野澤哲美さんから呼びかけを行い、平成20年に開催して2回目となる。

苫前地区で趣味を持つ住民の作品として絵画、写真、陶芸や近代画、生け花など約150点が展示された。野澤さんは「苫前地区の住民の癒しとコミュニケーションの場となってもらいたい」と話した。



## ミニロケットに歓声 ～植松努ロケット教室～



10月4日(月)に子ども読書活動推進実行委員会(後藤たみよ委員長)主催の「手づくりロケット教室」が古丹別小学校で行われ、苫前小学校6年生と古丹別小学校4年生のあわせて30名が参加した。

講師は(株)植松電機専務取締役でカムイスペースワーク社長の植松努さん。ロケットは20センチほどだが、火薬式で100メートルほど飛ぶ本格的なもの。製作では説明せず「作り方は説明書に書いてあるので、読んで考え作ること。分からないことは友達か私に聞いてください」と言いスタートした。途中、友達に聞いたり、植松さんに確認し完成。グラウンドで行った打ち上げは、猛スピードで飛び立つロケットに歓声が上がり、パラシュートで落ちてくるロケットを夢中で追いかけていた。

## 社会福祉への貢献に対し表彰状を伝達 ～社会福祉施設役員・職員功労者表彰～

9月9日(木)に札幌市で開催された第60回北海道社会福祉大会で、長年にわたり社会福祉向上に貢献された方を表彰する社会福祉施設役員・職員功労者表彰において、本町の社会福祉施設役員2名と職員5名が表彰され、10月7日(木)と15日(金)に町社会福祉協議会の笹原進会長より表彰状の伝達が行われた。笹原会長は「これからも本町の地域福祉のためご尽力願います」と協力を呼びかけた。受賞者は次のとおり。

- |               |              |              |
|---------------|--------------|--------------|
| ○社会福祉施設役員功労者  | ○社会福祉施設職員功労者 | ○社会福祉施設職員功労者 |
| ・社会福祉法人古丹別福祉会 | ・苫前幸寿園       | ・古丹別保育所      |
| 松岡 満雄(役員歴29年) | 石川 裕一(在職23年) | 川森のり子(在職34年) |
| 檜森 正春(役員歴29年) | 伊藤せつ子(在職22年) | ・苫前保育園       |
|               | 古林 久江(在職21年) | 青木久美子(在職20年) |



## 旭川凌雲高等学校吹奏楽局とままえコンサート



10月10日(日)公民館において旭川凌雲高等学校吹奏楽局とままえコンサートが開催され、地域住民など約400名が演奏、音楽劇、マーチングなど多彩な催しを楽しんだ。

同吹奏楽局によるコンサートは2回目で、北海道吹奏楽団体コンクールA編成の部で金賞を受賞する道内でも実力はトップクラス。

第1部前半には苫前中・古丹別中学校も「オーディナリーマーチ」「恋はあせらず」の演奏と「心から心へ」の合唱を行い、100名以上での演奏・合唱は圧巻。第2部ではコンクールメンバーによる演奏、第2部ではマーチングや音楽劇など多彩なプログラムで聴衆を引き込み、アンコールが止まず大盛況だった。

## 食について学習を深める ～留萌管内連合会消費者大会～

留萌管内消費者協会連合会(逢坂武子会長)主催による留萌管内連合会消費者大会が10月12日(火)公民館で開催され、留萌管内の消費者団体と一般住民の約70名が食についての学習を深めた。

午前は北海道栄養士会の山際睦子さんの講演「健康と食生活の密接な関係」として、子どもの食を中心に肥満の増加や朝食欠食などの問題を指摘、食育の重要性を述べた。

午後は、環境共育事務所うてきあにの太田稔さんによる「食から考える環境教育」としてワークショップ形式で行われた。昼食の弁当食材がどのようにして自分たちの口に入るか、そのためエネルギーや添加物などがどれだけ使われているかを確認することができ「明日から自分に何ができるか」を考えるきっかけとなったようだ。



## 思ったこと、感じたことを堂々と発表 ～留萌地方南部弁論大会～



留萌地方中学校体育文化連盟主催による留萌地方中体連南部地区弁論大会が10月15日(金)苫前中学校体育館で開催され、中学生が自らの体験で感じたこと思ったことを発表した。

本町からは苫前中学校3年の白府佳歩さんが「伝えたいメッセージ」として祖父の病を通して感じたことなどを、古丹別中学校3年の向野翔太くんが「あいさつの大切さ」として生活の基本であるあいさつの重要性などを堂々と述べたものの、白府さんは優良賞、向野くんは奨励賞の受賞となった。

講評では「この貴重な経験をこれからの中学校生活に役立ててほしい」と述べるとともに、会場となった苫前中学校の生徒の聴衆態度が大変良かったとの評価もいただいた。

## げんきの森植樹 ～ローソン包括連携事業～

町緑化推進委員会(森利男委員長)主催の力昼げんきの森(旧力昼小学校跡)への植樹が開催され、苫前小学校1～3年生までの約40名がエゾヤマザクラやエゾコブシなど130本を植樹した。

力昼げんきの森には、植樹祭等でも植樹を行っているが、今回は北海道と包括連携を締結している(株)ローソンからの苗木提供があったため植樹が実現した。ローソンは各店舗に緑の募金箱を設置、それを原資に自然環境保全として森林づくりなどを行っている。

力昼生活館でローソン鬼鹿店の竹中政人オーナーから緑の募金の説明を受けた後、げんきの森に移動し、児童が2人1組になって大きく育つことを願いながら、1本1本植樹を行っていた。



## 風車の今後と地球環境を考える ～とままえ町民講座～

風車のまち「とままえ」の住民として、新エネルギーが地球環境保全に果たす役割と個人や地域生活の中にエコロジーを取り入れるための学習機会を目的に、とままえ町民講座を10月19日(火)に公民館で初めて開催された。北海学園大学開発研究所で社会貢献の1つとして行われている開発特別講座との共催で行われ、約40名が受講した。

「地球環境を守るためのエコライフを考える」というテーマで開催された内容は、「地球環境保全に向けた住民や地域、行政の役割」と題して同大学法学部の横山純一教授の講演がまず行われた。

横山教授は日本で風力発電が増加してきた経緯、環境先進国スウェーデンの取り組みなどを説明。環境保護が産業として活性化するための実践例を交え、住民や行政としてどのような取り組みが必要かを話した。更に地方分権や自治体独自施策の展開として住民との協働できる体制の構築や、時代を読み先取りするような考えを持つなど行政職員の意識改革、先進自治体に学ぶことで自らも先進自治体になる意気込みを持つことが重要と話した。

パネルディスカッションでは、本町より西大志町議会議員と高田和彦企画振興課新エネルギー係長がパネラーとして、風力発電を行ったことのメリット・デメリット、今後風力発電を活かしていくために考えていることなどで自分の考えを述べた。



西議員は「風力発電のまちに育った子ども達がエコに関心をもち、環境に貢献してくれる人材が育つようになればよいのでは」と話し、高田係長は「大量生産時代に育った人たちが、エコを考え、生活ランクを下げることは難しいと思う。資源が枯渇する前に、行政や住民1人ひとりに何ができるかを考えていく必要がある」と話した。

最後に横山教授は「時代の流れの中でこれまで見向きもされなかったものが注目されたり、その逆もある。風力発電は今逆風を迎えているが、様々な可能性も見え、まちづくりも同様なことがいえる。逆風を逆手にとるような考えを持ち、風力でもまちづくりでも活かしてほしい」と述べた。

## 留萌管内PTA母親研修会・町PTA連合会研修会・ふるさと教育セミナー

10月23日(土)公民館で留萌管内PTA母親研修会が町PTA連合会研修会・ふるさと教育セミナーとあわせて開催され、留萌管内の児童生徒をもつ保護者約170名が参加した。

「子どもとのコミュニケーションを変える体験学習」としてMIW工房の姉帯美和子さんによる演習が行われた。日頃の自分の態度や表現に気づき、よいコミュニケーションを理解するため、グループに分かれ様々な設定で、感じ方や気づいたことを確認しあった。参加者は、子どもとよいコミュニケーションを望んでいるものの、一方的な言い方など言葉や気持ちのすれ違いも多いことや、相手には様々な考えや見方があることを尊重、共有することの重要性について実践的な体験により理解を深めていた。



# 両中学校吹奏楽部定期演奏会

10月24日(日)両中学校で定期演奏会が開催され、吹奏楽部の日頃の練習の成果を堪能した。

苦前中学校(半澤豊秀校長)の定期演奏会は、苦前中学校体育館で行われ約150名の来場者があった。同中学校の定期演奏会は初めて。

2部構成で行われたが、第1部ではコンクールで演奏した「一休禅師〜いま宿花知徳の道へ」など吹奏楽曲を中心に演奏され、第2部では、Jポップ、アニメや旭川凌雲高等学校コンサートで披露した合唱など多彩なプログラムで観客を楽しませていた。本年度退職となる顧問の熊澤重雄先生や退部となる3年生への花束贈呈なども行われた。



同日、古丹別中学校(長谷川博校長)の定期演奏会が公民館で開催され、約180名の来場者があった。同校吹奏楽部の定期演奏会は昨年に引き続き2回目で13名の部員が来場者の心に響く演奏で楽しませていた。

2部構成で行われた内容で、第1部では「007」「情熱大陸」などを全員で、金管五重奏による「ドラゴンクエスト序曲のマーチ」や木管四重奏による「スリラー」などが演奏された。

また、第2部ではJポップ「ARASIメドレー」やジャズ「インザムード」を演奏、途中この演奏会で最後となる3年生への花束贈呈などのサプライズでホロリとさせる場面もあり、場内から惜しめない拍手が寄せられていた。

## 年末年始に向けて！ ～商工会のプレミアム地域振興券発売～

10月25日(月)商工会館及び福祉センターにおいて、プレミアム地域振興券の70歳以上の方に対する先行販売が行われた。プレミアム地域振興券は、町130年記念と商工会法施行50周年記念として行われ、1万円円で1万2千円分利用できるのが特徴で、昨年も年末年始の利用を見込み実施、今回で2回目となるが、前回同様2500セットを作成した。

苦前地区の販売場所である福祉センターでは、朝10時に販売予定であったが、9時30分頃から徐々に人が集まり、列を作って販売を待っていたことから、予定よりも5分早めでの発売となった。

プレミアム地域振興券は、1人3セット3万円までで完売次第終了となるが、利用期間が平成23年1月31日までとなっているため、購入された方は忘れずに利用を。



## ファイヤー通信

## 秋の火災予防運動を実施

秋の火災予防運動に伴う啓発パレードを10月15日に実施。苦前支署では危険物安全協会の協力を得て、車両啓発パレードを実施。古丹別支署では、婦人防火クラブ、農協女性部フレッシュミズ部会、シルバー防火クラブ、幼年消防クラブ、危険物安全協会の協力を得て、防火パレード及び車両啓発パレードを実施し、地域住民に火災予防を喚起した。



苦前地区車両啓発パレードの様子



古丹別地区防火パレードの様子

**火事・救急は119番!**

北留消防組合消防署 苦前支署 ☎64-2321  
古丹別支署 ☎65-4119

## 地域社会貢献事業

まちの施設を整備していただきました



留萌信用金庫苦前支店横の廃屋を隠すための目隠し柵の設置を北開建設工業株式会社が行い、そのための資材を留萌地区間伐材生産加工協同組合(松尾忠司代表理事)が提供した。

ここには廃屋の撤去しきれないブロック片などが見え、景観を損ねていましたが、今回の申し出により見違えるほどよくなりました。ありがとうございました。

訂正とお詫び  
十月号でお知らせした「留萌信用金庫苦前支店横の目隠し柵の設置」の記事で資材提供先である「留萌地区間伐材生産加工協同組合(松尾忠司代表理事)」の事業所名が抜けておりました。ここにお詫びするとともに今月号で改めて紹介させていただきます。申し訳ありませんでした。